豊山町社会教育センター図書室資料弁償実施要領

(趣旨)

第1条 この要領は、豊山町社会教育センターの設置及び管理に関する条例(昭和63年豊山町条例第4号)第12条に定める損害賠償のうち、豊山町社会教育センター図書室(以下「図書室」という。)を利用する者(以下「利用者」という。)が、図書室が所蔵する図書、雑誌、視聴覚資料その他の図書室資料(以下「資料」という。)を紛失、損傷及び滅失(以下「紛失等」という。)したときの弁償の取扱いについて、必要な事項を定める。

(弁償者)

第2条 弁償者は、資料を紛失等又は他の利用者へ提供することが不可能なほど資料的価値を喪失させた次の各号に掲げる者とする。

- (1) 貸出処理を行っている場合は、当該資料を借り受けている者
- (2) 貸出処理を行っていない場合は、当該資料の価値を著しく喪失させた者
- (3) 前2号に該当する者が弁償困難な場合においては、その関係者

(弁償方法)

第3条 利用者は、故意又は過失により資料を紛失等したときは、速やかに図書室資料紛失等届出書(様式第1号)を社会教育センター館長(以下「館長」という。)に提出しなければならない。

2 館長は、前項の届出があったときは、当該利用者に対して図書室資料紛失等弁償通知(様式第2号)により通知し、弁償を求めるものとする。

3 前項に規定する弁償の基準は別表のとおりとする。

4 第2項の規定による資料の弁償は、該当資料と同一の資料をもって行うものとする。ただし、映画の著作物に該当する資料の弁償は、著作権者への補償金を含めた相当額を金銭で行うものとする。また、観光ガイドブック等同一のテーマで最新版が逐次刊行されている資料の弁償は、最新版の資料の提供によるものとする。

5 絶版等の理由により同一の資料が入手不可能な場合又は館長が特別に認める場合は、館長が指定する代替資料又は金銭による弁償を行うものとする。

6 利用者は、弁償に係る同一の資料又は代替資料を自ら入手するものとする。

7 図書室が他の図書館又は図書室から借用した資料を利用者が紛失等した場合は、当該資料を所有する図書館又は図書室が指定する方法により利用者が弁償を行うものとする。

(弁償の免除)

第4条 前条の規定にかかわらず、館長は、資料の紛失等の原因が次の各号のいずれかに該当する場合は、弁償を免除することができる。

- (1) 天災(地震・風水害等)による場合
- (2) 火災(出火原因が利用者の故意によるものは除く。)による場合
- (3) 盗難による場合
- (4) 長期間の利用による経年劣化が原因と考えられる場合

(5) その他館長がやむを得ない理由によるものと認める場合

2 前項第1号から第3号の規定により弁償の免除を受けようとする利用者は、罹災証明書、被災証明書、盗難届出受理番号その他の免除理由が存することを証明する資料を提出しなければならない。ただし、館長が特別の理由があると認めたときは、この限りではない。

(資料の返還)

第5条 現物又は代替資料、金銭によって弁償をした後に、紛失した資料が見つかった場合であっても、弁償された現物又は代替資料、金銭は返還しないものとする。ただし、館長が特別の理由があると認めたときは、この限りではない。

(弁償の期限)

第6条 第3条第4項又は第5項の規定による弁償は、同条第1項に規定する図書室資料紛失等弁償通知(様式第2号)を通知した日から起算して1月以内に行わなければならない。

(利用の制限)

第7条 第3条第2項の規定による通知を受けた者が前条の規定による期限までに弁償をしない場合は、弁償が完了するまでの期間、その者の資料等貸出及び予約の受付を停止するものとする。

(その他)

第8条 この要領の定めるもののほか、資料の弁償について必要な事項は館長が別に定める。

附 則

この要領は、令和7年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

資料の種類	対象	状態
印刷資料	水濡れ、飲食物等の染み	ア 水濡れ等により、ページの歪み又は浪打ちが生じた場合 イ お茶、コーヒー等の飲食物により染みなどの汚れが生じた場合 ウ 飲食物、セロテープ、のり等の付着によりページが接着した場合、接着を剥がしたことによりページが欠損した場合 エ カビが発生した場合
	資料の一部の亡失、汚損又は破損	ア 破れ、切り取り、ページの欠損等が生じた場合 イ タバコ等による焦げ跡が残った場合
	書き込み	ア マジック、ボールペン、クレヨン、マーカー等消すことが困難な筆記用具による落書き、アンダーライン等の書込みがある場合 イ 鉛筆、色鉛筆等消すことが可能な筆記用具であっても、筆圧等が強く、消した後も読み取りが困難な場合又は痕跡が残る場合 ウ 鉛筆、色鉛筆等消すことが可能な筆記用具であっても、消すことによりイラスト、文字等に色褪せが生じた場合
	噛み跡	ア 乳幼児、ペット等が噛んだため、噛み跡又は傷が生じた場合 イ 乳幼児、ペット等が噛んだため、資料が破損した場合
	異物の挟み込み等	衛生上問題のあるものが挟み込まれていた場合
	電子付録の異常	ア 再生機器で再生できない状態になった場合 イ 再生の際に機器の故障が生じる恐れがある場合
	型紙、地図等資料の付録	上記及びその他に準じ、弁償が必要と判断された場合

	その他	利用者の故意又は過失により、利用に供することが困難と館長が判断する場合
視聴覚資料	本体の異常	ア 再生機器で再生できない状態になった場合 イ 再生の際に機器の故障が生じる恐れがある場合
	歌詞カード、解説書等付録の汚損	印刷資料の型紙、地図等資料の付録に準じる

備考

- 1 別表の対象のうち次の場合は、弁償しないことができる。
 - (1) 長期間の利用による経年劣化が原因と考えられる場合
 - (2) 修復可能な場合
 - (3) 弁償にあたらないと館長が判断する場合
- 2 弁償に該当するか否かの判断は、複数の職員の協議によるものとする。